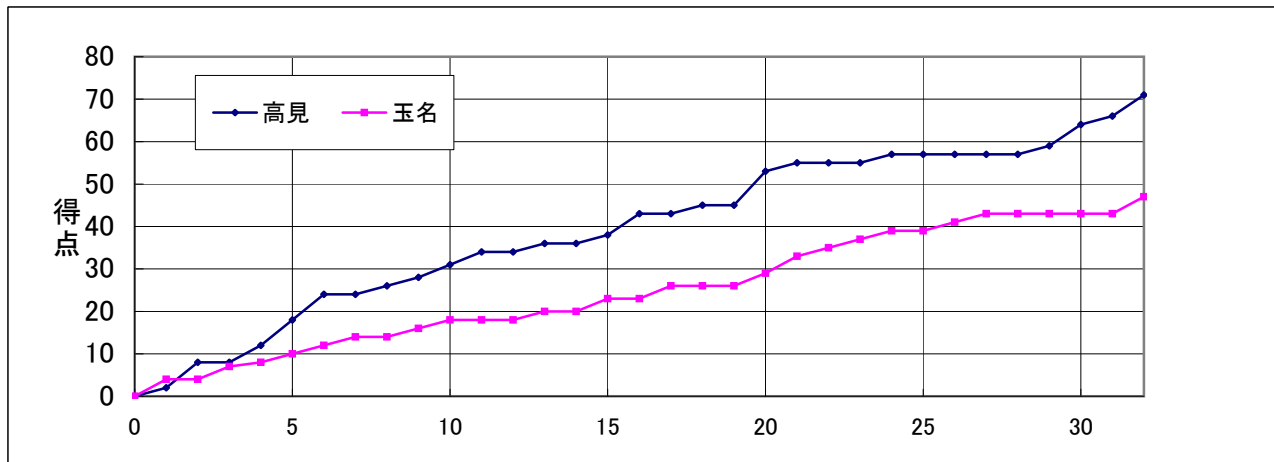


大会名	平成21年度 第30回全九州中学生 バスケットボール春季選手権大会	A1	9:30	女子準決勝															
	期日	2010年(平成22年)3月14日(日)	高見 71 (福岡1位) ○	<table border="1"> <tr><td>26</td><td>—</td><td>14</td></tr> <tr><td>17</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>14</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr><td>14</td><td>—</td><td>8</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	26	—	14	17	—	9	14	—	16	14	—	8	—	—	—
					26	—	14												
17	—	9																	
14	—	16																	
14	—	8																	
—	—	—																	
会場	大分県立総合体育館	47 玉名 (熊本1位) ●																	

主審 川原 慎仁 副審 新里 まどか



タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q	OT1	OT2
—	20:49	—	—

### 高見

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 高橋 幸奈	4	0	1	2	5
5	水上 千聖	—	—	—	—	—
6	栗原 沙妃女	3	1	0	0	1
7	扇山 里紗	0	0	0	0	0
8	* 荒川 紗生子	0	0	0	0	1
9	二見 捺央	0	0	0	0	0
10	* 萩尾 千尋	26	0	13	0	1
11	中尾 イダリア	2	0	1	0	1
12	宮本 玲奈	—	—	—	—	—
13	藤井 園子	5	1	1	0	1
14	* 森田 菜奈枝(C)	21	2	7	1	4
15	栗原 奈那恵	—	—	—	—	—
16	* 有田 かな	10	0	5	0	2
17	森 彩乃	—	—	—	—	—
18						
コーチ	山崎 修					
合計		71	4	28	3	16

タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q	OT1	OT2
04:28	26:46	—	—

### 玉名

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 馬場 奈央子(C)	12	1	4	1	2
5	西川 すみれ	—	—	—	—	—
6	前田 雪葉	—	—	—	—	—
7	* 上田 祐季	17	1	6	2	2
8	* 中尾 小春	6	0	2	2	1
9	藤木 友香	—	—	—	—	—
10	* 川本 雅	5	0	1	3	5
11	大森 彩未	—	—	—	—	—
12	* 森川 美波	5	1	0	2	4
13	山口 萌夏水	—	—	—	—	—
14	浦嶋 映里	2	0	1	0	1
15	吉川 杏奈	—	—	—	—	—
16	太田 結日	—	—	—	—	—
17	松本 真心	—	—	—	—	—
18	上原 千晶	—	—	—	—	—
コーチ	杉本 三郎					
合計		47	3	14	10	15

\*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル R…リバウンド As…アシスト

## 戦評

女子準決勝のAコートでは、福岡第1代表高見中と熊本第1代表玉名中の試合となった。ディフェンスは、両チームともオールコートマンツーマン。開始2秒ジャンプボールから玉名#7上田のドライブインで先制。その後も#7上田を中心にオフェンスを組み立てる。対する高見は#10萩尾のミドルシュート、#14森田のカットインブレイやポストブレイで対抗。その後高見は、#10萩尾のアシスト・スティール・ジャンプシュートで加点。残り3分32秒、16-8となり、玉名がタイムアウトをとる。タイムアウト後、玉名は#4馬場のドライブイン、ディフェンスではプレッシャーを強め、対抗しようとするが、高見#14森田を中心とした攻撃に得点を許し、26-14高見リードで第1Q終了。

第2Q、玉名は#7上田の連続得点で追い上げを試みるが、高見は#10萩尾の確率の高いシュートで追撃を許さない。残り3分45秒、高見が点差を広げ、36-18となったところで玉名がタイムアウトをとる。玉名はオフェンスリバウンドでがんばりを見せるが、得点にはつながらず、高見は前半終了間際、#14森田の3Pがブザーと同時に決まり、点差を広げ、43-23で前半を終了。

第3Q、玉名は#12森川の3Pで先制し、1:2:1:1のオールコートディフェンスでプレッシャーをかける。高見は#13藤井の連続得点などで対抗する。その後、高見はミスが出たところで、タイムアウトをとる。タイムアウト後、高見はボールをコントロールしながら、得点を重ねていく。玉名も#4馬場のバスケットカウントやステップインシュート、#8中尾のポストプレーなどでオフェンスを組み立てるが、点差はあまり縮まらず、57-39で第3Qは終了。

第4Q、高見はボールをコントロールしながら、時間をかけてじっくり攻めるが点数にはつながらず、玉名は積極的な1on1、オフェンスリバウンドで応戦。残り3分39秒、高見が第4Q初得点をあげたところで、玉名がタイムアウト。流れを引き寄せようとするが変わらず、玉名は最後までボールにプレッシャーをかけたが、高見はコントロールしながら着実に加点した。高見が71-47で勝利、2年連続決勝進出を決めた。

記載者 高山、野田 (所属) 大分県バスケットボール協会